

20 猪苗代湖 (会津若松市・郡山市・猪苗代町)



事な編隊を見せてくれる。この編隊を見るには白鳥浜がおすすりである。寒さも増し、自然の餌が乏しくなると、ハクチョウは長浜や崎川浜に集まってくる。ここでは給餌を行っており、ハクチョウの他にオナガガモやキンクロハジロ、ホシハジロ、スズガモなどのカモ類も多数見ることができ。また、県内では稀に渡来するマガンやヒシクイが混じっていることもある。沖合にも目を配ってみると、カワアイサやミコアイサ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリなども見つかる。

環 境

福島県のほぼ中央に位置し周囲50.4km、わが国第4位の広さを持つ湖である。水面高514m、面積103.9km²、最大深93.5mで透明度も27.5mと高い。北岸では長瀬川の酸性水が入るため、湖水の酸性度はPH5程度で生物の生息には限界があるようだ。北岸のみに湖棚が発達し、遠浅でヨシ、マコモ、ガマ、コウホネ、アサザ、クロモ、フサモなどの生育が見られる。猪苗代湖の湖水は湖岸の一部を除き冬の間凍結することが無いため、冬期には北方から渡来したカモ、ハクチョウ類の一大生息地となっている。北岸一帯は「猪苗代湖のハクチョウおよびその渡来地」として国の天然記念物に指定(1971年)されている。

季 節

10月中旬頃にハクチョウの第一陣が渡来し、3月下旬頃までその姿を楽しむことができる。猪苗代湖には、ハクチョウの渡来場所が数カ所あり、代表的な所では、国道49号線沿いの白鳥浜、三城潟、長浜、長浜の対岸に位置する崎川浜(さっかはま)である。

渡ってきてしばらくは、日の出とともに湖から飛び立ち、周りの田んぼで落ち穂をついばんでいる姿をよく見かける。この時は、警戒心が強く、驚ろかさなように充分注意して見てほしい。西の空が茜色に染まると、田んぼで餌をとっていたハクチョウが湖に帰ってくる。短い距離を鉤になり竿になり見

カモたちが一齐に飛び出したら上空を注意したい。オジロワシやオオワシが飛んでいることもあるからだ。

春、ハクチョウが去った湖には、南から小鳥たちが渡来する。5月初旬頃からオオヨシキリ、ホオアカ、コヨシキリが、湖畔のアシ原や畑で大きな口を開けてさえずっている姿が見られるようになる。ヤナギの木ではカッコウが托卵のチャンスを伺っているのも見られる。

交 通

白鳥浜、三城潟、長浜は国道49号線沿いにあり、JR磐越西線猪苗代駅から会津バスの便がある。崎川浜にはマイカーのみである。

